

「若手教員の授業力向上に向けて」

研究代表者 和歌山大学教職大学院 中山 眞弘

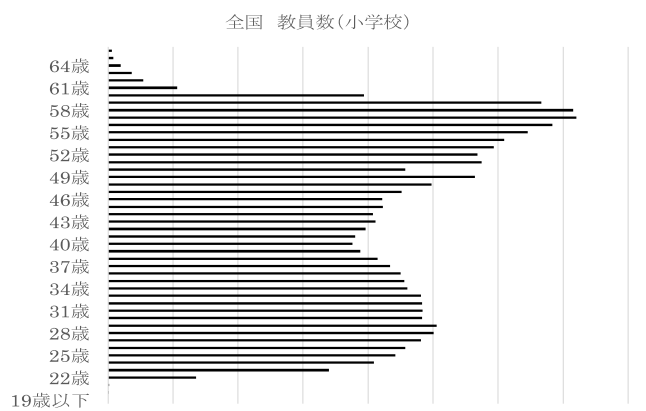
共同研究者 有田川町立藤並小学校 福田 雄太、藤岡 千尋、山本 郁哉、上田 莉穂、
新谷 知咲

有田川町立藤並小学校（和歌山大学教職大学院生） 九鬼 正志

1. はじめに

今日、教育現場ではいわゆる団塊の世代の大量退職に伴い、20代の若手教員が急激に増えてきている。一方、その若手教員を育てるべきミドルリーダーを担うべき年代の教員が少なく、若手教員の育成が十分にできていない現状だと言える。図1は、平成28年度学校教員統計調査（文部科学省）による年齢別での教員構成のグラフである。

このグラフからもわかるように「学校現場においては、教員の大量退職・大量採用等の影響によって、年齢構成や経験年数の不均衡が生じ」ている。その結果「従来の学校組織において自然に行われてきた経験豊富な教員から若手教員への知識及び技術等の伝達が困難となるなど、教員を巡る環境が大きく変化している。」（「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」文部科学省告示（平成29年3月））のである。



（図1）年齢別の小学校教員数

（平成28年度学校教員統計調査，文部科学省）

そこで、若手教員の資質向上を図るための校内研修を充実させるとともに、教員への負担を軽減した研修システムを構築することを目指し本研究を行った。

2. 学校概要

藤並小学校は、有田川中流に位置し、近くにはJRの駅や高速道路のICがあるなど、交通の便が発達していることから、近年新たな住宅も増え児童数も有田地方最大規模の小学校となっている。そのため、学校の課題としては多様な課題を抱えた子どもが在籍することから、集団づくりに力を入れている。研究主題に迫ることを目指すため、教職員の学年や学級などの経営能力を高め、やる気を引き出す指導により、学力を向上させていく実践に取り組んでいる。また、6年生の教科担任制やセットアップ学習・オリエンテーション・学年集会や学年杯など特色ある取り組みを行ったり、児童会や学級会など自治活動を活性化させたりして、自分たちで学校生活を楽しく豊かなものにしていく活動を重視している。児童数や学級数の多さをメリットとした実践を工夫し開発に努めている。

【研究主題】

「やる気の研究」 ～主体的・対話的で深い学びを目指して～

【児童数】

(平成 31 年 4 月 1 日現在)

学年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	支援	計
児童数 (人)	男子	48	59	44	55	51	40	16	313
	女子	50	54	54	47	54	34	4	297
	計	98	113	98	102	105	74	20	610

【職員数】(人)

学校長 1、教頭 1、教員 31、養護教諭 1、職員 16 計 50

3. 活動内容

3.1 研究体制づくり

今年度は、例年になく初任者が配属されなかった。これまでは、毎年のように複数名初任者が配属されることが多かったが今年は配属されていないので、1名の異動による転出者を除き昨年と同じメンバーで研究に取り組むことにした。ただし、昨年と同じメンバーでの研究となるので、昨年までのようにただ授業を参観して授業の基礎について話し合うのではなく、より専門性を高めることができる授業研究になるよう務めた。研究体制は以下の通りである。

〈研究コーディネーター〉…ミドルリーダー

教職経験 11 年目教員

教職経験 14 年目教員…現在、和歌山大学教職大学院（2 年）に在学中

〈若手教員〉

教職経験 5 年目教員…次期ミドルリーダーの育成に向けて

教職経験 3 年目教員 1 名 教職経験 2 年目教員 2 名 以上 6 名

3.2 研究授業

【第 1 回研究授業】令和元年 6 月 14 日（金）6 限目 授業者：藤岡 千尋（5 年目教員）

学年・教科領域： 第 5 学年 算数科

单元名：小数÷小数

展開：

	学習活動・内容
導 入	① 1 分間チャレンジ（体積） ② 問題を知る ③ めあてを知る あまりの大きさについて考えよう
展 開	④ 自力解決 ⑤ 集団解決 ⑥ 練習 P 52 ②の 1、③ ⑦ 答え合わせ
ま と め	⑧ まとめ ⑨ ふりかえり ⑩ 確認プリント



（図 2）カンファレンスの様子

第1回目の訪問は、昨年同様、教職経験5年目教員が研究授業を行った。若手教員にとって身近な手本になるという理由もあるが、本教諭が算数科の研究に対し興味があり、今年度の目的であるより深い研究に向けてふさわしいと考え、第1回目の研究授業者とした。今回の研究授業に向けては、本学より算数科の専門教員も参加し、教科としてのより深い指導を仰ぐことができた。

また、今回は本大学院の授業の1つ「若手校内研修への支援」のフィールドワーク場所としても設定した。(図2) この授業は、現職教員が受講対象となる授業で多くの教員から見てもらう機会として設定することができた。

【第2回研究授業】令和元年10月2日(水)6限目 授業者：山本 郁哉(2年目教員)

学年・教科領域： 第6学年 理科

単元名：「水よう液の性質」

展開：

	学習活動・内容
導 入	①溶けているものを取り出すために、さまざまな水溶液(食塩水・塩酸・炭酸水)を蒸発させると、どうなるかを考える
展 開	②めあてを確認する 炭酸水に何が溶けているのかを調べよう！ ③予想・計画をする ④実験をする ⑤結果を表に記入する ⑥結果を考察する
ま と め	⑦本時の学習を振り返る

第2回目の研究授業は、教職経験2年目の教員が研究授業を行った。今回は、本教諭が専門としている教科ではないが、教科担任制を行っている藤並小学校において、本教諭が担当している理科の授業を研究授業教科としている。直近で校内研究授業(指導訪問)も控えており、今回の授業はその事前授業として位置づけて行った。これまで参観してきた授業とは違い、研究授業に向けての教材研究や授業づくりもしているため、緊張感のある授業となっていた。今回の授業による反省を踏まえ、本番の校内研究授業にも反映しており、即座に授業改善を図ることができる機会となった。

【第3・4回研究授業】

令和元年12月3日(火)5限目 授業者：福田 雄太(11年目教員)

コーディネーター教員

学年・教科領域： 第6学年 国語科

教材名：「やまなし」「イーハトーブの夢」

展開：

	学習活動・内容
導 入	①前時までの学習を振り返る
展 開	②本時の学習課題を確認する <div>賢治の作品についてのブックポスターの下書きをしよう</div> ③自分の選んだ作品の「あらすじ」「やまなしの」の表現と似ているところ」「感想（心に残ったところ）」という項目ごとに、下書きをする
ま と め	④本時の学習をまとめる ⑤次時の学習内容を知る

令和元年12月3日（火）5限目 授業者：上田 莉穂（2年目教員）

学年・教科領域： 第1学年 国語科

教材名：「むかしばなしがいっぱい」

展開：

	学習活動・内容
導 入	①前時までの学習を振り返る
展 開	②本時の学習課題を確認する <div>おはなしのすきなところをかいいて、ビブリオバトルのじゅんぴをしよう</div> ③準備の内容を理解する ④発表カードに気に入った登場人物の名前を書く ⑤カードを使ってペアで練習する ⑥好きなページを選び、付箋を貼る ⑦ページを開きながら発表の練習をする ⑧発表カードにお気に入りの言葉や文を書く ⑨ペアで発表の練習をする
ま と め	⑩次時の学習内容を知る

第3・4回目の研究授業は、「和歌山県学校図書館研究大会」で発表した授業を研究授業の1つとした。そのため、カンファレンスは実施できていないが、この授業参観を改めて後日のカンファレンスで活かしていきたいと考える。授業者は、これまでコーディネーターを担ってきた教員と教職経験2年目の教員である。研究大会での授業と言うこともあり、教材研究も含めしっかり準備を整えた授業づくりを図ることができていた。

【第5回研究授業】令和2年2月に実施予定

4. おわりに

今年度は、初任者の配属がなかったため、授業の基礎となる教師の所作に係る点を抑え、教科等に係る専門性等を高める授業研究に取り組んだ。これまでに授業所作やカンファレンスでの協議の仕方、授業を見る視点など参加する教員の質が向上しつつあるので、専門性等を高める授業研究にあたっても、しっかりと授業内容について考えることができていた。若手教員が専門性に係る授業研究をすると、つい専門性に追いつけず傍観してしまうことがあるが、しっかり自分自身が授業に対する視点を持つことができておれば、授業研究を深めることができると言えよう。

また、今年度は研究授業の場を特別な設定の場として扱うことができた。大学院の授業のフィールドワークの場であったり、校内研究の試行的位置づけであったり、研究大会の研究授業であったりと緊張ある場面での研究授業であった。このような場を幾度も踏むことで教師として一段と成長を促進させることができると言えよう。こうした場を仕掛けることが教師の成長を促すために重要になってくるのである。

このように、これまでの取組とは一段階ステップアップした形で取組を実施した。若手教員は、環境がなければいつまでも成長しないが、環境が整えば成長も著しい。その成長に則した研究体制を整えてあげることが、これからの教員の育成に必要だと考える。